

Title	戦略的組織 - その動態化と評価モデル -
Sub Title	
Author	北畑慶久(Kitahata, Yoshihisa) 関本昌秀
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0078

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	北 畑 慶 久	主査	関 本 昌 秀	教授
	(株式会社 第一勸業銀行)	副査	石 田 英 夫	教授
所属ゼミナール	奥 村 昭 博 研		奥 村 昭 博	助教授

戦 略 的 組 織 — その動態化と評価モデル —

本論文の出発点は、コンティンジェンシー理論であった。そして、論理究明過程においても最近のコンティンジェンシー・セオリスト達の諸研究に多くの示唆を受けた。筆者は、これらの示唆を基礎に、「戦略的組織評価モデル」という独自の評価方法を、今まで実証適用の分野とならなかった「都市銀行の経営」に適用し、その結果を「戦略的組織の動態モデル」という形で表現してみた。

こういった論文展開の中で、筆者が得た果実は、① 五つの理論仮説と動態モデルを支持出来た事、② 組織能力が果たす役割を再確認した事、③ 経営資源蓄積の重要性を認識した事、④ 経営要素間の多元的適合関係は、経営のダイナミックな展開の中にあるという示唆を得た事、⑤ 経営トップの指導力と自由闊達な組織風土に関する結語を得た事である。

最近のコンティンジェンシー・セオリスト達は、「統合的コンティンジェンシー・モデル(野中他1978)」を基点として、「経営要素間の多元的適合関係に関するより一歩踏み込んだ研究」「戦略の掘り下げ」「静学的適合から動学的適合への着目」「経営リーダーシップ・組織風土・成員の動機に対する戦略組織論的アプローチ」等に関する諸研究を活発に発表してきている。

筆者は、本論文で得た果実が、コンティンジェンシー理論体系の新しい広がりある展開への材料となることを強く希望したい。